

水戸市水道事業基本計画（第3次）の中間年次目標値達成状況について

水戸市上下水道局水道部

1 水戸市水道事業基本計画（第3次）における目標指標

水戸市上下水道局水道部では、水道事業の置かれている状況と社会経済情勢の変化に対応しながら、安全で安心できる水道を次世代に継承するため、『市民とともに 未来へつなぐ 安心で頼れる水道』の実現に向け、2014（平成26）年度に水戸市水道事業基本計画（第3次）を策定し、様々な施策を展開するとともに、重点施策については目標指標を設定して事業を推進してきたところである。

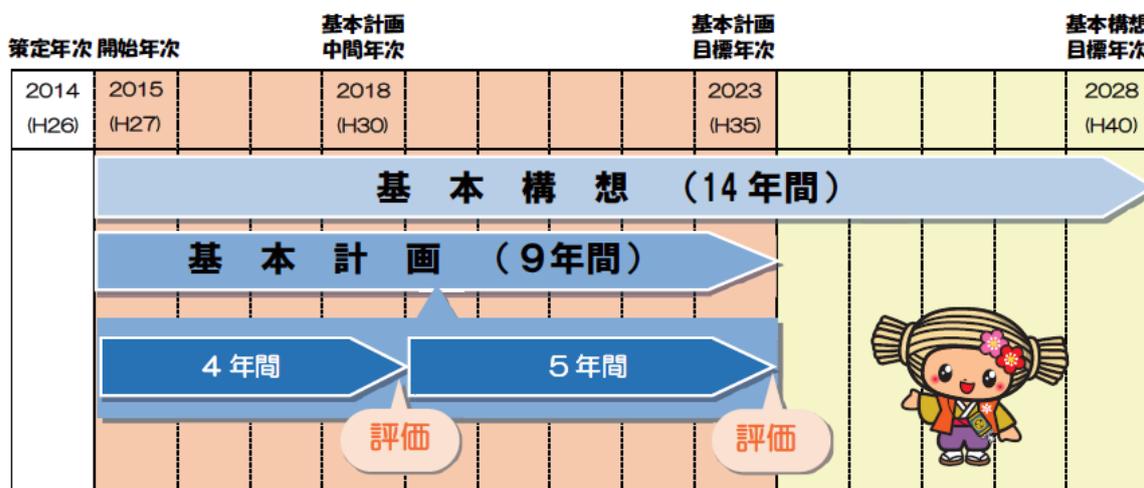
今後もこれらの施策を一層推進していくにあたり、目標指標を設定している12の施策について2018（平成30）年度末までの前期4年間における目標値達成状況を確認し、評価を行った。

2 水戸市水道事業基本計画（第3次）の計画期間

2015（平成27）年度から2023（令和5）年度までの9年間

3 中間年次評価の対象年度

2018（平成30）年度（前期4年終了年次）



[出典：水戸市水道事業基本計画（第3次）P6]

4 各目標値の達成状況

指標1	鉛製給水管解消率(%)	給水課												
目的	鉛製給水管における水質リスクを解消するために、鉛製給水管解消事業を行う													
中間年次目標値達成状況	未達成													
<p>指標1: 鉛製給水管解消率(%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年次</th> <th>実績 (%)</th> <th>目標 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準年次 H25年度</td> <td>51.3</td> <td>51.3</td> </tr> <tr> <td>中間年次 H30年度</td> <td>64.2</td> <td>75.1</td> </tr> <tr> <td>最終年次 R5年度</td> <td>-</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>			年次	実績 (%)	目標 (%)	基準年次 H25年度	51.3	51.3	中間年次 H30年度	64.2	75.1	最終年次 R5年度	-	100
年次	実績 (%)	目標 (%)												
基準年次 H25年度	51.3	51.3												
中間年次 H30年度	64.2	75.1												
最終年次 R5年度	-	100												
中間年次 (H30) 目標値達成状況の説明	<p>中間年次目標値 75.1%に対し実績値 64.2%であり、達成率に対して10.9ポイントの遅れがみられる。</p> <p>未達成の事由として、主に以下の2つが挙げられる。</p> <p>①給水装置の所有者確認及び工事に関する交渉・承諾に時間を要してしまい、当初予定より大幅に遅れてしまう。</p> <p>②工事の承諾が得られない場合は、解消ができず残存してしまう。</p>													
最終年次 (R5) 目標値達成に向けた見通し	<p>これまでの進捗状況等の結果を踏まえ、計画を見直し、事業期間の延長を計る必要がある。</p>													

指標2	老朽化した水道施設設備の更新件数(件)	浄水管理事務所																					
目的	設備の機能維持を図るため、老朽化設備の更新を優先的に行う																						
中間年次目標値達成状況	未達成																						
<div style="text-align: center;"> <p>指標2: 老朽化した水道施設設備の更新件数(件)</p> <table border="1" style="margin: 10px auto; border-collapse: collapse;"> <caption>指標2: 老朽化した水道施設設備の更新件数(件)のデータ</caption> <thead> <tr> <th>年次</th> <th>実績 (実績)</th> <th>目標 (目標)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準年次 (H27年度～)</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H27年度</td> <td>~</td> <td>~</td> </tr> <tr> <td>H28年度</td> <td>~</td> <td>~</td> </tr> <tr> <td>H29年度</td> <td>~</td> <td>~</td> </tr> <tr> <td>中間年次 (H30年度)</td> <td>14</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>最終年次 (R5年度)</td> <td>~</td> <td>121</td> </tr> </tbody> </table> </div>			年次	実績 (実績)	目標 (目標)	基準年次 (H27年度～)	0	0	H27年度	~	~	H28年度	~	~	H29年度	~	~	中間年次 (H30年度)	14	36	最終年次 (R5年度)	~	121
年次	実績 (実績)	目標 (目標)																					
基準年次 (H27年度～)	0	0																					
H27年度	~	~																					
H28年度	~	~																					
H29年度	~	~																					
中間年次 (H30年度)	14	36																					
最終年次 (R5年度)	~	121																					
中間年次 (H30) 目標値達成状況の説明	<p>状態監視保全^{※1}の考え方にに基づき、設備の状態に応じた点検調査を行った結果、更新の緊急性が高い設備については、当初計画の対象設備に限らず、優先的に更新や改修工事を実施してきた。</p> <p>その一方で、当初計画対象設備のうち、点検の結果、更新の緊急性が低いと判断した設備、他工事との工程調整、あるいは浄水場間での水生産バランスの調整が必要な設備などについては、更新時期を見直したため、中間年次目標値達成には至らなかった。</p> <p>未達成分については、今後年数の経過とともに劣化が進行していくことが想定されるため、引き続き点検調査等により老朽化の進行度合いを見極めながら、計画的に更新していく必要がある。</p>																						
最終年次 (R5) 目標値達成に向けた見通し	<p>未実施分を含めて、緊急性の高いものから財源の調整を図り、計画的に順次更新していく。</p>																						

※1 状態監視保全：点検調査や診断結果に基づいて、個別施設単位で最適な更新時期を設定する方法。

指標3	災害に備えた耐震化施設整備件数(件)	浄水管理事務所																					
目的	基幹施設（取水施設，導水施設，浄水施設，配水施設）は被災による影響が大きいため，優先的に耐震化（停電対策を含む）を行う																						
中間年次目標値達成状況	未達成																						
<div style="text-align: center;"> <p>指標3: 災害に備えた耐震化施設整備件数(件)</p> <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <caption>指標3: 災害に備えた耐震化施設整備件数(件)の進捗状況</caption> <thead> <tr> <th>年次</th> <th>目標 (件)</th> <th>実績 (件)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準年次 (H27年度～)</td> <td>0</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H27年度</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>H28年度</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>H29年度</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>中間年次 (H30年度)</td> <td>6</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>最終年次 (R5年度)</td> <td>9</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> </div>			年次	目標 (件)	実績 (件)	基準年次 (H27年度～)	0	-	H27年度	1	1	H28年度	3	3	H29年度	4	4	中間年次 (H30年度)	6	5	最終年次 (R5年度)	9	-
年次	目標 (件)	実績 (件)																					
基準年次 (H27年度～)	0	-																					
H27年度	1	1																					
H28年度	3	3																					
H29年度	4	4																					
中間年次 (H30年度)	6	5																					
最終年次 (R5年度)	9	-																					
中間年次 (H30) 目標値達成状況の説明	<p>耐震診断を行い，耐震性がないことが判明した施設（枝内取水場及び沈砂池，開江浄水場浄水施設，常澄浄水場吸水井）においては，耐震補強または新たに築造工事を実施するとともに，耐震性があることが確認できた施設（ダム導水ポンプ場）においては，耐震施設に分類した。これにより，4施設の耐震化について計画どおり実施することができた。</p> <p>また，停電対策については，内原配水場自家用発電機設備を新設し，1施設について計画どおり実施することができた。</p> <p>その一方で，楮川浄水場浄水施設の耐震化については，開江浄水場との水生産バランスの調整を図る必要があり，同時並行で工事を行うことが困難であったことから，見送った結果，中間年次目標値6施設には届かなかった。</p>																						
最終年次 (R5) 目標値達成に向けた見通し	未実施分も含めて引き続き計画に従い，順次耐震化施設整備を行っていく。																						

指標4-1	老朽管(普通鋳鉄管)の残存延長(m)	水道整備課																					
目的	老朽管のうち、より耐震性の低い普通鋳鉄管の解消を目指す																						
中間年次目標値達成状況	達成																						
<p>指標4-1: 老朽管(普通鋳鉄管)の残存延長(m)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績 (m)</th> <th>目標 (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準年次 H25年度</td> <td>3,697</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H27年度</td> <td>~2,900</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H28年度</td> <td>~700</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H29年度</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>中間年次 H30年度</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>最終年次 R5年度</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>			年度	実績 (m)	目標 (m)	基準年次 H25年度	3,697	-	H27年度	~2,900	-	H28年度	~700	-	H29年度	0	0	中間年次 H30年度	0	0	最終年次 R5年度	0	0
年度	実績 (m)	目標 (m)																					
基準年次 H25年度	3,697	-																					
H27年度	~2,900	-																					
H28年度	~700	-																					
H29年度	0	0																					
中間年次 H30年度	0	0																					
最終年次 R5年度	0	0																					
中間年次 (H30) 目標値達成状況の説明	普通鋳鉄管の更新を優先的に実施し、2017 (平成 29) 年度に事業を完了した。																						
最終年次 (R5) 目標値達成に向けた見通し	—																						

指標4-2	老朽管(石綿セメント管)の残存延長(m)	水道整備課																					
目的	老朽管のうち、より耐震性の低い石綿セメント管の解消を目指す																						
中間年次目標値達成状況	達成																						
<p>指標4-2: 老朽管(石綿セメント管)の残存延長(m)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績 (m)</th> <th>目標 (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準年次 H25年度</td> <td>12,742</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H27年度</td> <td>~12,500</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H28年度</td> <td>~11,000</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H29年度</td> <td>~4,800</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>中間年次 H30年度</td> <td>3,882</td> <td>8,327</td> </tr> <tr> <td>最終年次 R5年度</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>			年度	実績 (m)	目標 (m)	基準年次 H25年度	12,742	-	H27年度	~12,500	-	H28年度	~11,000	-	H29年度	~4,800	-	中間年次 H30年度	3,882	8,327	最終年次 R5年度	0	0
年度	実績 (m)	目標 (m)																					
基準年次 H25年度	12,742	-																					
H27年度	~12,500	-																					
H28年度	~11,000	-																					
H29年度	~4,800	-																					
中間年次 H30年度	3,882	8,327																					
最終年次 R5年度	0	0																					
中間年次 (H30) 目標値達成状況の説明	石綿セメント管の更新を優先的に実施した。 また、2015 (平成 27) 年度において 3,077.8m 増の延長修正を実施した。																						
最終年次 (R5) 目標値達成に向けた見通し	引き続き計画的に石綿セメント管の更新を行う。 最終年次の目標値も達成見込みである。																						

指標5	開江浄水場導水管の更新延長(m) (既設管総延長:5,110m)	浄水管理事務所 ・水道整備課												
目的	老朽管のうち、被災による影響が大きい開江浄水場導水管の更新を優先的に行う													
中間年次目標値達成状況	未達成													
<div style="text-align: center;"> <p>指標5: 開江浄水場導水管の更新延長(m)</p> <table border="1" style="margin: auto;"> <caption>指標5: 開江浄水場導水管の更新延長(m)のデータ</caption> <thead> <tr> <th>年次</th> <th>目標値 (m)</th> <th>実績値 (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準年次 (H25年度)</td> <td>0</td> <td>5110 (既設延長)</td> </tr> <tr> <td>中間年次 (H30年度)</td> <td>1,100</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>最終年次 (R5年度)</td> <td>2,420</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> </div>			年次	目標値 (m)	実績値 (m)	基準年次 (H25年度)	0	5110 (既設延長)	中間年次 (H30年度)	1,100	0	最終年次 (R5年度)	2,420	-
年次	目標値 (m)	実績値 (m)												
基準年次 (H25年度)	0	5110 (既設延長)												
中間年次 (H30年度)	1,100	0												
最終年次 (R5年度)	2,420	-												
中間年次 (H30) 目標値達成状況の説明	<p>開江浄水場導水管の更新は、2017 (平成 29) 年度から 2027 (令和 9) 年度の 11 年間で当初計画期間としていたが、着手前に既存管路の耐震診断を実施した結果、一部、耐震性が不足していること、補修を要する箇所があることが判明した。また、一部路線において漏水事故が多発したことから、導水管全体の更新に先立ち、これら既存管路の事故リスクを解消するための緊急的措置を行う必要が生じた。</p> <p>そのため、既存管路における該当箇所の補強 (田野川第一水管橋耐震補強) 及び補修 (導水管露出部補修・防護, 枝内取水場取水管・導水管外面更生, 導水管漏水多発路線の布設替) を最優先として順次対策を進めている。</p> <p>また、上記対策及び現在実施している定期点検に加えて、既存管路の健全度調査を実施し、老朽度の進行度合いから導水管全体の適切な更新時期・更新手法について再評価を行う必要がある。</p>													
最終年次 (R5) 目標値達成に向けた見通し	<p>既存管路における事故リスク対策の早期完了を目指すとともに、健全度調査及び評価を行う。その結果に応じ、時期を見極めた上で、導水管更新事業に着手することとする。</p>													

指標6	口径 300 mm以上の管路の耐震適合率 ^{※2} (%)	水道整備課																					
目的	被災による影響が大きい基幹管路 ^{※3} の耐震化を優先的に行う																						
中間年次目標値達成状況	達成																						
<div style="text-align: center;"> <p>指標6: 口径300mm以上の管路の耐震適合率(%)</p> <table border="1" style="margin: auto;"> <caption>指標6: 口径300mm以上の管路の耐震適合率(%)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績 (%)</th> <th>目標 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準年次 H25年度</td> <td>39.4</td> <td>39.4</td> </tr> <tr> <td>H27年度</td> <td>~41.5</td> <td>~41.5</td> </tr> <tr> <td>H28年度</td> <td>~43.0</td> <td>~43.0</td> </tr> <tr> <td>H29年度</td> <td>~44.5</td> <td>~44.5</td> </tr> <tr> <td>中間年次 H30年度</td> <td>45.6</td> <td>45.0</td> </tr> <tr> <td>最終年次 R5年度</td> <td>-</td> <td>50.0</td> </tr> </tbody> </table> </div>			年度	実績 (%)	目標 (%)	基準年次 H25年度	39.4	39.4	H27年度	~41.5	~41.5	H28年度	~43.0	~43.0	H29年度	~44.5	~44.5	中間年次 H30年度	45.6	45.0	最終年次 R5年度	-	50.0
年度	実績 (%)	目標 (%)																					
基準年次 H25年度	39.4	39.4																					
H27年度	~41.5	~41.5																					
H28年度	~43.0	~43.0																					
H29年度	~44.5	~44.5																					
中間年次 H30年度	45.6	45.0																					
最終年次 R5年度	-	50.0																					
中間年次 (H30) 目標値達成状況の説明	被災による影響が大きい基幹管路 (口径 300 mm以上) の耐震化を優先的に実施した。																						
最終年次 (R5) 目標値達成に向けた見通し	目標値達成に向けて、引き続き基幹管路 (口径 300 mm以上) の耐震化を行う。																						

※2 管路の耐震適合率：(耐震適合管路延長／管路総延長) × 100 (%)

耐震適合管路とは、耐震管のほか、良好な地盤に敷設され、耐震性を評価できる管のこと。

※3 基幹管路：導水管、送水管及び口径 300mm 以上の配水管。

指標7	口径 500 mm以上の管路の耐震適合率(%)	水道整備課																					
目的	基幹管路のうち、より被災による影響が大きい口径 500mm 以上の管路の耐震化を優先的に行う																						
中間年次目標値達成状況	達成																						
<div style="text-align: center;"> <p>指標7: 口径500mm以上の管路の耐震適合率(%)</p> <table border="1" style="margin: 10px auto; border-collapse: collapse;"> <caption>指標7: 口径500mm以上の管路の耐震適合率(%)</caption> <thead> <tr> <th>年次</th> <th>実績 (%)</th> <th>目標 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準年次 H25年度</td> <td>83.6</td> <td>83.6</td> </tr> <tr> <td>H27年度</td> <td>84.8</td> <td>84.0</td> </tr> <tr> <td>H28年度</td> <td>84.8</td> <td>84.0</td> </tr> <tr> <td>H29年度</td> <td>84.8</td> <td>84.0</td> </tr> <tr> <td>中間年次 H30年度</td> <td>84.8</td> <td>84.0</td> </tr> <tr> <td>最終年次 R5年度</td> <td>-</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> </div>			年次	実績 (%)	目標 (%)	基準年次 H25年度	83.6	83.6	H27年度	84.8	84.0	H28年度	84.8	84.0	H29年度	84.8	84.0	中間年次 H30年度	84.8	84.0	最終年次 R5年度	-	100
年次	実績 (%)	目標 (%)																					
基準年次 H25年度	83.6	83.6																					
H27年度	84.8	84.0																					
H28年度	84.8	84.0																					
H29年度	84.8	84.0																					
中間年次 H30年度	84.8	84.0																					
最終年次 R5年度	-	100																					
中間年次 (H30) 目標値達成状況の説明	被災による影響が大きい基幹管路 (口径 500 mm以上) の耐震化を優先的に実施した。																						
最終年次 (R5) 目標値達成に向けた見通し	目標値達成に向けて、引き続き基幹管路 (口径 500 mm以上) の耐震化を行う。																						

指標8	耐震型循環式飲料水貯水槽設置数(累計)(基)	水道整備課																					
目的	災害時における給水拠点の増加を図るため、耐震型循環式飲料水貯水槽の設置を進める																						
中間年次目標値達成状況	未達成																						
<div style="text-align: center;"> <p>指標8:耐震型循環式飲料水貯水槽設置数(累計)(基)</p> <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <caption>指標8:耐震型循環式飲料水貯水槽設置数(累計)(基)のデータ</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績 (基)</th> <th>目標 (基)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準年次 H25年度</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>H27年度</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>H28年度</td> <td>5</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>H29年度</td> <td>6</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>中間年次 H30年度</td> <td>7</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>最終年次 R5年度</td> <td>-</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 目標及び実績には、茨城県が平成 26 年度に設置した貯水槽1基を含む。</p> </div>			年度	実績 (基)	目標 (基)	基準年次 H25年度	4	4	H27年度	5	5	H28年度	5	6	H29年度	6	7	中間年次 H30年度	7	8	最終年次 R5年度	-	10
年度	実績 (基)	目標 (基)																					
基準年次 H25年度	4	4																					
H27年度	5	5																					
H28年度	5	6																					
H29年度	6	7																					
中間年次 H30年度	7	8																					
最終年次 R5年度	-	10																					
中間年次 (H30) 目標値達成状況の説明	<p>中間年次 (H30) 目標値である耐震型循環式飲料水貯水槽設置数 (累計) 8 基の達成に向けて計画どおり着手したが、うち 1 基は翌年度に繰越したため、2018 (平成 30) 年度末時点における設置数は累計 7 基となった。</p> <p>なお、繰越工事については、2019 (令和元) 年度中に完成し、目標値 8 基を達成する見込みである。</p>																						
最終年次 (R5) 目標値達成に向けた見通し	残り 2 基の設置場所の選定，実施設計，設置工事を行う。																						

指標9	給水管漏水調査件数(栓) (平成17年度以降の累計)	給水課												
目的	漏水量の低減, 有収率の向上を図るため, 漏水調査を計画的に実施する													
中間年次目標値達成状況	達成													
<div style="text-align: center;"> <p>指標9: 給水管漏水調査件数(栓) (平成17年度以降の累計)</p> <p>■実績 —目標</p> <table border="1" style="margin: 10px auto; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>年次</th> <th>実績 (栓)</th> <th>目標 (栓)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準年次 H25年度</td> <td>173,103</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>中間年次 H30年度</td> <td>259,489</td> <td>256,298</td> </tr> <tr> <td>最終年次 R5年度</td> <td>-</td> <td>345,531</td> </tr> </tbody> </table> </div>			年次	実績 (栓)	目標 (栓)	基準年次 H25年度	173,103	-	中間年次 H30年度	259,489	256,298	最終年次 R5年度	-	345,531
年次	実績 (栓)	目標 (栓)												
基準年次 H25年度	173,103	-												
中間年次 H30年度	259,489	256,298												
最終年次 R5年度	-	345,531												
中間年次 (H30) 目標値達成状況の説明	<p>目標値 256,298 栓に対し実績値 259,489 栓であり, 当初計画どおりに給水管漏水調査は進捗している。</p> <p>達成要因として, 委託者に調査工程表の作成及び作業内容の検討など準備態勢を徹底させ, 逐次, 担当職員が確認している。これにより, 円滑な調査業務が進められていると考える。</p>													
最終年次 (R5) 目標値達成に向けた見通し	<p>2019 (令和元) 年度基準で, 2023 (令和5) 年度調査予定件数 (栓) は, 346,434 栓となり, 最終年次目標値においても達成見込みである。</p>													

指標 10	有収率 ^{※4} (%)	給水課																					
目的	有収率を 95%まで向上させ、水道事業運営の更なる効率化を図る																						
中間年次目標値達成状況	未達成																						
<div style="text-align: center;"> <p>指標10: 有収率(%)</p> <table border="1" style="margin: 10px auto; border-collapse: collapse;"> <caption>指標10: 有収率(%)の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績 (%)</th> <th>目標 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準年次 H25年度</td> <td>86.2</td> <td>86.2</td> </tr> <tr> <td>H27年度</td> <td>~88</td> <td>~88</td> </tr> <tr> <td>H28年度</td> <td>~88</td> <td>~88</td> </tr> <tr> <td>H29年度</td> <td>~88</td> <td>~88</td> </tr> <tr> <td>中間年次 H30年度</td> <td>88.5</td> <td>90.6</td> </tr> <tr> <td>最終年次 R5年度</td> <td>-</td> <td>95</td> </tr> </tbody> </table> </div>			年度	実績 (%)	目標 (%)	基準年次 H25年度	86.2	86.2	H27年度	~88	~88	H28年度	~88	~88	H29年度	~88	~88	中間年次 H30年度	88.5	90.6	最終年次 R5年度	-	95
年度	実績 (%)	目標 (%)																					
基準年次 H25年度	86.2	86.2																					
H27年度	~88	~88																					
H28年度	~88	~88																					
H29年度	~88	~88																					
中間年次 H30年度	88.5	90.6																					
最終年次 R5年度	-	95																					
中間年次 (H30) 目標値達成状況の説明	<p>目標値 90.6%に対し実績値 88.53%であり、達成率に対して 2.07 ポイントの遅れがみられる。</p> <p>進捗遅延の事由として、給水管漏水調査や宅内漏水調査等により漏水等の水量を遡減しても、他の要因により有収率が伸びにくいことが要因として挙げられる。</p>																						
最終年次 (R5) 目標値達成に向けた見通し	<p>有収率は、無効水量(漏水等水量等)の要因だけでなく、無収水量(部事業用水量等)からも影響を受けるため、向上しにくい特性がある。</p> <p>このため、状況を鑑みた目標値の再設定が必要である。今後の計画においては、有収率だけでなく、有効率^{※5}(有効に使用された水量の指標)もあわせて議論する必要がある。なお、有効率に関しては、2014(平成26)年度 89.77%、2015(平成27)年度 89.96%、2016(平成28)年度 90.68%、2017(平成29)年度 90.78%、2018(平成30)年度 91.28%と遡増しており、これまでの施策が着実に効果として表れている。</p> <p>よって、今後、有収率と有効率をあわせた考察をしながら、水道事業運営のさらなる効率化を図りたい。</p>																						

※4 有収率：給水量に対する料金徴収の対象となった水量及び他会計等から収入のあった水量（有収水量）の比率。

※5 有効率：給水量に対する使用上有効と見られる水量（有効水量）の比率。

指標 11	未利用財産利活用面積(累計)(m ²)	経理課																					
目的	維持管理費等の支出削減, 資産の有効活用による収入の確保を目指し, 未利用財産の活用方法を検討・実施する																						
中間年次目標値達成状況	未達成																						
<div style="text-align: center;"> <p>指標11: 未利用財産利活用面積(累計)(m²)</p> <table border="1" style="margin: 10px auto; border-collapse: collapse;"> <caption>指標11: 未利用財産利活用面積(累計)(m²)</caption> <thead> <tr> <th>年次</th> <th>目標値 (m²)</th> <th>実績 (m²)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準年次 H25年度 [保有面積]</td> <td>0</td> <td>53,576</td> </tr> <tr> <td>H27年度</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H28年度</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H29年度</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>中間年次 H30年度</td> <td>49,238</td> <td>13,141</td> </tr> <tr> <td>最終年次 R5年度</td> <td>52,627</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> </div>			年次	目標値 (m ²)	実績 (m ²)	基準年次 H25年度 [保有面積]	0	53,576	H27年度	-	-	H28年度	-	-	H29年度	-	-	中間年次 H30年度	49,238	13,141	最終年次 R5年度	52,627	-
年次	目標値 (m ²)	実績 (m ²)																					
基準年次 H25年度 [保有面積]	0	53,576																					
H27年度	-	-																					
H28年度	-	-																					
H29年度	-	-																					
中間年次 H30年度	49,238	13,141																					
最終年次 R5年度	52,627	-																					
中間年次 (H30) 目標値達成状況の説明	未利用地の一部については, 一般競争入札等による売却や民間等への貸付を行い, 収入の確保に努めることができた。しかしながら, 地価下落の影響や長期にわたる不動産取引の低迷により, 土地の売却は厳しい状況が続いているほか, 未利用地の多くが不整形地や市街化調整区域等であることなどから売却等が困難な状況である。																						
最終年次 (R5) 目標値達成に向けた見通し	将来的にも利活用が見込めない土地等については, 維持管理費の節減や収入確保の観点から積極的に民間等への貸付や売却処分をする必要があるが, 未利用地の多くが不整形地や市街化調整区域であるため, 最終年次においても売却等が困難な状況が見込まれる。																						

指標 12	配水量1m ³ 当たり電力消費量(kWh/m ³)	浄水管理事務所																					
目的	浄水処理における効率的な運転管理の徹底，省エネ機器の導入などにより，電力消費量を抑制する																						
中間年次目標値達成状況	未達成																						
<div style="text-align: center;"> <p>指標12: 配水量1m³当たり電力消費量(kWh/m³)</p> <table border="1" style="margin: 10px auto; border-collapse: collapse;"> <caption>指標12: 配水量1m³当たり電力消費量(kWh/m³)</caption> <thead> <tr> <th>年次</th> <th>実績 (kWh/m³)</th> <th>目標 (kWh/m³)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準年次 H25年度</td> <td>0.56 (基準値)</td> <td>0.56</td> </tr> <tr> <td>H27年度</td> <td>0.55</td> <td>0.54</td> </tr> <tr> <td>H28年度</td> <td>0.56</td> <td>0.535</td> </tr> <tr> <td>H29年度</td> <td>0.55</td> <td>0.53</td> </tr> <tr> <td>中間年次 H30年度</td> <td>0.55</td> <td>0.53</td> </tr> <tr> <td>最終年次 R5年度</td> <td>-</td> <td>0.50</td> </tr> </tbody> </table> </div>			年次	実績 (kWh/m ³)	目標 (kWh/m ³)	基準年次 H25年度	0.56 (基準値)	0.56	H27年度	0.55	0.54	H28年度	0.56	0.535	H29年度	0.55	0.53	中間年次 H30年度	0.55	0.53	最終年次 R5年度	-	0.50
年次	実績 (kWh/m ³)	目標 (kWh/m ³)																					
基準年次 H25年度	0.56 (基準値)	0.56																					
H27年度	0.55	0.54																					
H28年度	0.56	0.535																					
H29年度	0.55	0.53																					
中間年次 H30年度	0.55	0.53																					
最終年次 R5年度	-	0.50																					
中間年次 (H30) 目標値達成状況の説明	<p>省エネ対策として，これまでにポンプ等の更新時において，省エネ機器の導入を実施してきたが，根本的に電力消費量を抑えるためには，楮川浄水場系と比較して電力消費効率が高い開江浄水場の水生産の割合を高めることが不可欠である。</p> <p>しかし，2016（平成 28）年度から 2018（平成 30）年度までの開江浄水場系施設の耐震補強工事や 2018（平成 30）年度に発生した導水管漏水事故等の影響により，開江系施設を一部停止し，電力消費効率が低い楮川浄水場の配水量増産によるバックアップ措置が必要となったため，電力消費量を目標値まで抑制するには至らなかった。</p>																						
最終年次 (R5) 目標値達成に向けた見通し	<p>開江浄水場系施設の耐震工事がほぼ完了したことから，開江浄水場の配水量増産による効率的な運転管理に努めるとともに，引き続き設備更新時には省エネ機器導入の検討を進めながら，電力消費量低減を目指していく。</p>																						

5 中間年次（H30）目標値達成状況を踏まえた今後の展開

(1) 中間年次（H30）目標値達成項目について

12 指標のうち 4 項目については、当初予定していた目標値を達成することができた。今後も引き続き最終年次（R5）目標値の達成及び更なる向上に向けて、計画的に事業を推進していく。

中間年次目標値達成項目（4 項目）
指標 4：老朽管（普通鉄管及び石綿セメント管）の残存延長
指標 6：口径 300 mm以上の管路の耐震適合率
指標 7：口径 500 mm以上の管路の耐震適合率
指標 9：給水管漏水調査件数

(2) 中間年次（H30）目標値未達成項目について

12 指標のうち 8 項目については、複合的な阻害要因や最優先で実施すべき事象の発生などの理由により、当初予定していた目標値の達成には至らなかった。

しかしながら、これまでの取組により少なからず一定の進捗・効果が表れていることから、目標値の下方修正は行わず、今後も引き続き課題の解消や事業手法の改善に努めながら向上を目指し、より一層計画的かつ効率的な事業を推進していく。

中間年次目標値未達成項目（8 項目）
指標 1：鉛製給水管解消率
指標 2：老朽化した水道施設設備の更新件数
指標 3：災害に備えた耐震化施設整備件数
指標 5：開江浄水場導水管の更新延長
指標 8：耐震型循環式飲料水貯水槽設置数
指標10：有収率
指標11：未利用財産利活用面積
指標12：配水量 1 m ³ 当たり電力消費量